

「SDGs と私たちの暮らし」

豊橋消費者協会

SDGs とは、2015 年 9 月の国連総会にて全会一致で採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、国連サミットにおいて「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられた目標である。

2030 年を達成年限とする 17 のグローバル目標（その下に 169 のターゲット（達成基準）と 232 の指標が決められている）で構成されている。

多様性が広がる昨今にて、人が生活するため、生物多様性の保全のため、今後の未来を見据えた生活様式が求められる。豊橋消費者協会でも身近なことから SDGs に貢献できることを検討するため、岐阜薬科大学名誉教授である「稲垣 隆司さん」を講師に迎え、協会構成員と共に研究した。

○人と自然が共生する社会を創るために、愛知目標が目指す主な目標

① 生物のための健全な生息生育空間を確保する。

・生態系ネットワークの形成⇒生物多様性の損失を抑止する。

② 生物多様性の主流化

・生物多様性の保全や持続可能な利用が、日常生活や社会経済活動に組み込まれ、行動につながることを。

⇒例：身近な動植物の保全、良好な生態系の確保、外来種の駆除

○なぜ生物多様性の保全が大切か（生態系サービス）

① 基盤的サービス（人間が存在するのに必要な基盤を整える）

・栄養素の循環、土壌の形成、酸素の供給、動植物の生息・生息地の提供など、人間という存在にとって欠くことのできない環境基盤を整えている。

② 供給的サービス（人間にとって有用な価値を持つ）

・生物を食料、材料として、また多様な生物を工業材料、医薬品、燃料などに利用する。
・多様な生物は、バイオテクノロジーの更なる技術進展によって新たな医薬品や食糧開発などにも役に立つ。

③ 調整的サービス（人間生活の安心・安全性を保証する）

・森林を守り、無理な開発を避け、人工林を管理することは、二酸化炭素の吸収、気温、湿度の調整など気候変動の緩和、水質の浄化や水源地の汚染防止など安全な飲み水の確保、また、土壌の保持による洪水の制御や災害防止につながる。

④ 文化的サービス（豊かな文化の根源となる）

・日本人は自然と順応して、多様な文化形成してきた。
・料理（食材、酒）、木の文化、祭り・民謡など

○身近にできる SDGs について

【食品ロス問題の解消】

- ・令和元年 10 月 1 日に施行された「食品ロス削減推進法」は、政府が食品ロス削減の基本方針策定し、都道府県、市町村で基本方針を踏まえ、食品ロス削減推進計画の策定をする。多様な主体が連携し、国民一人一人が意識を持つことで国民運動として食品ロスの削減を推進する。

- ・「食品の 3 分の 1 ルール」を見直す企業がある。

食品の 3 分の 1 ルールとは、スーパーなどを小売店の間に存在している商習慣です。賞味期限が残り 3 分の 1 となる前に卸業者が小売店に納品しなければならないというものである。

例：賞味期限が 6 カ月の場合		
・ 製造業者は製造後 2 カ月で製品の出荷禁止		
・ 販売店は製造後 4 カ月で製品を店頭から撤去		
(2 か月)	(2 か月)	(2 か月)
製造業者出荷禁止		販売店・店頭から撤去

まだ食べられる食品を廃棄するフードロスを生み出す大きな原因の 1 つと言われており、法律で定められていない商習慣であるため、ルールの緩和が難しく停滞していたが、農林水産省の主導のもと、商習慣ルール緩和に向けた取り組みが進められ、大手スーパーやコンビニエンスストアなどでルール緩和に応じる企業も現れた。

- ・消費者個人としても、食材を「買いすぎず」、「使い切る」、「食べ切る」、「残った食材は別の料理に」を目標に、自身の意識を変えることが大切である。例えば、【賞味期限にこだわらない】。賞味期限は、おいしく食べることができる期限であり、多少過ぎてもすぐに食べられない訳ではなく、品質に問題はない。賞味期限が設定されている食品については、直近で消費する予定があれば、賞味期限が近いものを選ぶことで廃棄を減らせる。（消費期限は、食べても安全な期限であり、切れた時点で食べないこと）

【海洋プラスチック汚染の防止】

- ・現在、海に流入している海洋プラスチックごみは、アジア諸国からの発生によるものが、全体の約 82% になる。海洋に投棄されたプラスチックごみは、海洋での波や紫外線等の影響を受けて、小さなプラスチックの粒子となり、食物連鎖を通じて多くの生物に取り込まれ、生物の多様性に影響を与えている。
- ・個人として、プラスチックごみ問題解決の基本として、3R の推進が大切である。
 - ① リデュース＝出すゴミの総量を減らすこと。バイオプラスチックなど。
 - ② リユース＝再利用すること。古着の購入など。
 - ③ リサイクル＝再生産に回すこと。資源の再利用のためごみの分別を徹底する。

【エシカル消費の拡大】

- ・環境、社会、人に優しい消費（＝エシカル消費）を目指す。エシカル消費の輪を広げる

ことにより、「使い捨て」や「安価で大量生産」をよしとする消費一辺倒の経済活動のサイクルを変えることができる。具体的な例として、

- ① 自然エネルギーの利用（環境）
- ② エコマーク付きの製品の販売や購入（環境）
- ③ 地産地消の拡大（社会）
- ④ エネルギー効率が良く寿命の長い LED 電球の利用・普及（環境）
- ⑤ 障害者が作った製品を購入する（人）
- ⑥ 障害者を積極的に支援している企業や事業所の商品を購入する（人）
- ⑦ フェアトレード商品の購入（社会）

※適正な値段で原料や製品を購入し、その値段に見合った価格で販売する仕組み

- ⑧ バリアフリーやユニバーサルデザイン等を積極的に取り組んでいる企業の製品の購入の促進をする（社会）
- ⑨ FSC 森林認証（適正に管理されている森林資源を使用した紙製品等についている認証）製品の積極的購入（環境・生物多様性）
- ⑩ MSC 認証（海洋の自然環境や水産資源を守って捕獲された水産物に付く認証）製品の積極的購入（環境・生物多様性）

○まとめ

- ◆生物多様性の保全について、4つの生態系サービスは、人間が存在するのに必要な環境基盤を整え、人間にとって有用な価値を持つ生物を保護し、人間生活の安心・安全性を保証する。そして多様な文化の根源となり、豊かな生活を形成することが分かった。
- ◆SDGs への貢献として身近にできることが多くあることが分かった。今後、食品を選ぶ際は積極的に賞味期限が近い物を購入し、フードロス削減を目指すこと。3Rである日本の「もったいない精神」を大切に、環境にも社会にも優しい消費を目指す。
- ◆個人単位で身近なことから SDGs を意識する生活をする事で、世界規模で起きている課題に少しでも助力となり、未来の消費者たちにも安心した生態系サービスが整うことを願う。

出典：岐阜薬科大学名誉教授

稲垣 隆司 講義資料

「SDGs と私たちの暮らし～考えよう 私たちの未来～」